

凍結防止のために

水抜き作業を行わず機器が破損した場合、修理費用はお客様の負担となります。

給湯器(屋外壁掛け)

給湯器の場合、凍結防止ヒーターが作動しておりますので、事前に給湯器ボックス(外壁取付け)内のコンセントがきちんと差し込まれてあるかどうか確認し、長期不在にする場合でも、**電気のブレーカーは絶対におとさない**でください。



水抜きの方法

※①・②・③を行う場合は、蛇口を全開にし、水が抜けたかどうか確認(約2分位)してください。

- ① 室内操作型 室内にプラスチックハンドルがありますので右側いっぱい回すと水が抜けます。
- ② 屋外操作型 建物の外(1階通路)に地下型になっています。丸いふたをあけてハンドルを右に回すと水が抜けます。
- ③ 自動水抜栓 主に台所・トイレの中にBOX型自動水抜栓がついていますので、手動で水抜きしたい時は水抜きボタンを押すと水が抜けます。電源はONのままにしておいてください。



※上記の水抜き方法については、建物および地域によって異なる場合があります。

風呂釜(バランス釜)

浴室内に設置されています。

1. 器具栓つまみを止の位置にもどします。
 給湯シャワー
2. ガス栓・給水栓を閉めます。
3. 湯温調節つまみをぬるいにします。
4. 出湯栓切替レバーを給湯に合わせます。
5. 水抜き栓つまみを左いっぱい回します。
○機器前面下部より水が排出されます。
○高温のお湯が出ることがありますので、やけどに注意してください。
6. 出湯栓切替レバーをシャワーに合わせます。
7. シャワーヘッドを低くし、ホース内の水を抜きます。
8. 浴槽の排水栓を開けて水を抜き、再び使用するまでそのままの状態にしておきます。

★ 2と6については、機種により操作位置が異なりますので、風呂釜本体に記載されている説明書きをご参照ください。

結露防止のために

結露が発生すると壁や天井が汚れるだけでなく、建物内部の構造そのものをいためます。さらに、有害なカビの発生源にもつながります。サッシ枠や窓ガラスについた水滴は、こまめに拭き取りましょう。結露が発生しているにもかかわらず、上記の手入れ等を怠り壁等にカビ・シミが発生した場合、入居者様の管理責任となり退去の際に入居者様に費用負担が発生します。

結露の原因となる生活水蒸気の主な発生源

- ガス・ストーブ等
- 洗濯、乾燥機
- 加湿器
- 調理、炊飯時
- 風呂、シャワー、洗面
- 室内で洗濯物を乾かすなど

- 冬の暖房器具使用時は、よく換気して室内の水蒸気の発生をおさえましょう。
- タンスや押入れなどは下にスノコを敷き、壁との間も5cm以上空けましょう。
- 室内に洗濯物を干すことは、結露やカビの原因になりますので、ご注意ください。

